

2023 年度ゼミ調査合宿と芸能体験

獨協大学外国語学部交流文化学科

鈴木ゼミ

吉澤恵里 手島美紅 吉見春佳

1. ゼミ合宿の概要

獨協大学外国語学部交流文化学科鈴木ゼミでは、2015 年度より達者集落でゼミ合宿を行っており、これまでに延べ 120 名以上の学生が合宿に参加している。新型コロナウイルス感染症のパンデミック（コロナ禍）以前は、達者集落センターに宿泊し、集落からいただいた差し入れの食材を用いて自炊を行い、風呂についてもご厚意により個人宅でお借りしていた。また毎年 10 月に行われる達者集落の祭りにも有志学生や卒業生が多数参加しており、延べ 30 人以上が参加してきた。しかしコロナ禍以降、2020 年度はゼミ合宿を中止し、2021 年度以降は達者集落近隣の宿泊施設に滞在して日程を短縮しながら調査合宿を行っている。

本ゼミの研究テーマは、観光研究、観光文化論である。文化人類学や社会学、地理学などに基礎を置く観光研究の成果を参照しながら、観光という現象、とりわけ昭和 40 年代から平成初期にかけての大衆・大量・団体観光（マス・ツーリズム）が地域で暮らす人々の生活にいかなる影響を与えてきたのかを探り、観光形態が転換した現在、集落の人々がどのような形で地域の資源を活用した観光やその他の活動に取り組んでいるのかを理解することが学生に与えられた課題である。

学生たちは地域の生活文化や佐渡観光に関連した個人テーマを設定し、滞在中聞き取り調査や参与観察を行う。コロナ禍前は、個人テーマに基づいて自由に行動していたが、2021 年以降は一定の制限を設けて団体行動を基本としている。なお研究の成果は報告書にまとめ、毎年度末に集落宛に送付している。

2. 2023 年度のゼミ合宿

2023 年度のゼミ合宿は、9 月 7 日～11 日の 4 泊 5 日の日程で行われた。集落近隣の旅館尖閣荘に宿泊し、基本的に団体行動で、集落役員や他地域からの移住者の方々にアポイントを取りインタビューを行った。そのほか世界遺産登録を控える佐渡金銀山の見学や、フィルムツーリズムの先駆けである映画『君の名は』の舞台、尖閣湾揚島遊園の視察を行った。また、9 月 9 日午前には佐渡芸能伝承機構から佐渡の芸能に関するレクチャーを受け、9 月 10 日夜には、達者青年会による芸能ワークショップを行った。ワークショップでは、豆まき型鬼太鼓と獅子の披露につづき、実際に太鼓や獅子の体験をさ

せていただいた。なお10月の達者祭りは神事のみとなったため、学生の参加は見送りとなった。学生の個人研究テーマは、「大学生との交流とともに継承される祭り」、「ホストとゲストが創造する相川地区における観光価値」、「達者海岸の観光方法の変容」、「まち歩きが達者集落にあたえる影響」、「はぎ架け米への思いの変容」などであった。

3. 取り組みの意図と成果

本ゼミの研究テーマは、「観光が地域にもたらす影響とは何か」であり、必ずしも直接的に地域活性化、あるいは観光振興にかかわる提案と結びつくものではない。課題解決・提案型プログラムと異なり、短期間で目に見える形で研究成果が示されることは困難であり、報告書の内容も集落の方々の興味関心と全てが合致しているとは限らない。一方で継続して取り組んできたのは、研究テーマとは直接関係なくとも芸能を媒介として地域とつながることである。既述のように、本ゼミの調査合宿では滞在中に必ず芸能体験プログラム（ワークショップ）を設定している。このことが、直接ではないにせよ受け入れ地域に貢献をする可能性を秘めている。

芸能体験は青年会が中心となっていくため、合宿の受け入れの中心となっている集落役員とは異なる世代の方々と交流するきっかけにもなる。もちろん青年会を卒業した集落役員を含む年長世代も、祭りや芸能については経験しているため、ワークショップの場でもお手伝いいただいている。また青年会のメンバーの中には、小中学生の子育て世代の方々も多く、子どもたちと学生との間にも交流が生まれる。このつながりが、学生の個人研究テーマに進めるうえで役に立つこともある。

ゼミ合宿において芸能体験を通じて形成された人間関係は、10月の祭りにおいても大きな意味を持つ。集落内の数十軒に門付けをしてまわる際には、学生の手伝いも一定の貢献となる。それだけでなく、夏に仲良くなった子どもたちとその母親世代も鬼太鼓と獅子について回るので、「以前に比べ祭りが非常に賑やかになった」と語ってくれた集落役員の方もいる。なお本年度の芸能体験ワークショップは、青年会にとって、2019年の10月に行われた達者祭り以来4年ぶりの披露の場であった（2022年度の合宿でも計画されていたが新型コロナの感染拡大のため直前で中止）。その意味では、ゼミの調査合宿がコロナ禍から復活を期する達者集落の祭りのスタートとなったともいえる。

現代において集落に伝承される芸能や祭りは、神への祈りを通じて氏子を中心とした集落内の社会組織を統制する場としてだけではなく、性別や世代を超え集落内の人々、さらには集落外、島外の大学生との交流を媒介する存在になっている。芸能を介した交流を調査合宿に組み込むことは、観光研究のみならずあらゆる学問分野のゼミ合宿でも応用可能である。直接的に「課題解決」を目的としない大学の調査合宿が研究活動のみに閉じることなく、芸能や祭りを介して集落や地域と交流すれば、大学と地域の連携がより幅広い研究分野と多数の集落・地区との間で可能となり、「結果として」佐渡の活性化に資するのではないだろうか。